

間伐材の利用に英知を!!

木曾森林組合長 浦沢英一



第四回通常総代会における役員改選に伴い、再度組合長としてお世話になることになりました。引き続き宜しくお願いいたします。

時々空の旅をすることがあります。私は景色を眺めることが好きですので、出来るだけ窓側の席を選びます。空から眺めた日本は殆どが緑の大地であり、この緑が水を蓄え、空気を浄化する素晴らしい効果を発揮しており、他に類を見ない国土であります。誇りを持ってこの環境を育てていかなくてはなりません。また、

私は何度か海外の視察旅行にも参加をさせてもらいました。オーストラリアの旅では記念植樹をしてきましたが、樹種はユーカリでコアラの食糧になつてることでした。今はどうなつていることでしょうか。次に訪れたニュージーランドは、正に羊を中心とした牧畜であり、広大な牧場が広がっていますが、一部に植林された緑があります。話によりますとこの木材は日本へ輸出するための林であるとのことで、我が国にはもつと素晴らしい材がいくらでも有るのに、不思議な思いに駆られたものです。外材ばかりに頼ることなく、身近な木材の利用を考えなくてはなりません。

昭和二十年代の後半でよ

うか、長野県の奨励でカラマツの植林をしました。不意に二万本もの苗木が届けられて、夢中で植え付けた思い出があります。場所が木曽馬の採草地でしたから、一鋤掘つて根を差し込み、踏むだけで一〇〇%根付きました。それから五十年余、立派に成るはずの林でしたが、手入れが行き届かず、大部分の山がヒヨロヒヨロとした林になってしましました。

先日、長和町の齋藤木材を

視察したところ、原木は全てカラマツを取り扱っています。建材としては遠慮されがちであったものが、乾燥や接着の技術開発により、大きさも長さも形状も自由自在の製品が出来ていました。そして

このカラマツ材は他の木材よりも耐火・耐震に優れているという研究結果もあり、捨てたものではないと意を強くしました。

国産材の時代、カラマツの時代が来ることを期待し、力強い材を育てるため間伐を推進し、木曽谷の先輩方が汗して育てた木々を切り捨てるところでした。木曽谷の先輩方が汗して育てた木々を切り捨てるところではなく、身近な木材の利用を考えなくてはなりません。

私たちには総意を持つて考えていかなければなりません。

新役員一同、この課題に誠心誠意取り組み、木曽谷の林業の発展に尽力を果たす所存でありますので、組合員の皆様の更なるご支援ご協力をお願いいたし、就任のご挨拶といたします。



浦沢英一組合長あいさつ



質問する総代



第4回木曾森林組合通常総代会に付議された事項

第四回通常総代会開催される

平成十八年四月二十六日

第四回通常総代会が、木曽町日義中央公民館において、木曽地方事務所長（代理）、木曽森林管理署長（代理）、県森林組合連合会をはじめ関係町村長などの関係者多数の来賓を迎えて、書面出席を含む一八〇名の総代の出席を得て開催されました。

総代会提出議案は役員改選議案を含め十議案であり、木曽町日義の手塚喜市氏を議長に選任し、活発な討議がなされ全議案が原案通り可決・承認され、また、新たな役員も決定されました。議事終了後退任役員、永年勤続職員に感謝状・表彰状が贈呈され総代会を終しました。